



芳滝 仁 議員  
(拓政会)



教育委員会は平成21年から本年度までの5年間の第4次生涯学習中期計画が終了し来年度よりの計画策定に向けて取り組んでいるが、以下伺う。

(1)目標に対する達成状況と評価について。

(2)基本構想では教育の根本である「生命と人権の尊重」について幕別町子どもの権利に関する条例に基づき取り組んだか。基本計画においては今後①道徳教育の家庭・地域の道徳的教育力の積極活用も学習指導要領の通り実践すべきだがどうか②少年教育について公区・地域の子ども会への取り組みも強化すべきだがどうか③青年教育においてはスポーツ・文化サークル等の連絡協議会的な組織作りを進めるべきだがどうか④ふるさと館と蝦夷文化考古館の今後は⑤「北の本箱事業」の充実について「カメレオンコード」活用新システム等の活用により推進を。

(3)今後の計画の中に「生涯学習推進会議」の設置、情報、相談体制

問 幕別町生涯学習計画について

答 平成26年度からの5年間の期間とする計画の策定作業を進めている

の整備、講座やサークル、スポーツクラブのネットワーク化、学習施設のネットワーク化が必要だ。

教育長(1)目標に対する達成状況

については、110項目の方策に対して、未実施となった項目はないが、青年教育における「各種青年活動への支援」と「高校生の地域活動への援助」、成人教育における「男女共同参画社会に関する情報提供」、高齢者教育における「世代間交流事業の促進」は、取り組みが十分とはいえない評価もあったことから、現在策定中の計画において継続して取り組みたい。

(2)道徳教育を地域の協力の中で実施している事業として、農協青年部による小学校での食育授業があり、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができたと考えている。

また、まちの自然や文化に触れる、宿泊研修を行うなどの活動をしている「ふるさと館のジュニアスクール」や、小学校高学年を対

象に自主学習の支援や工場見学などを行っている「学び隊」など、時間厳守や朝の挨拶、団体行動での協調性、はじめなどについても指導してもらっている。

(2)子ども会の活動は非常に大切だと思っており、子ども会の役員をはじめ、いろんな方の意見を聞きながら子どもたちが元気に遊べる、連携をしながら一つのことに取り組んでいけるといいう、そんな形になれるように努めていきたい。

(3)町づくりや経済の活性化には将来を担う若い人材の存在が不可欠であり、平成24年11月に「異業種交流若者の集い」が設立された。

今後、この集いと連携しながら学習機会の充実に努めていきたい。

(4)観光資源としての要素もあり、早い時期の整備が必要と考えており、この二つの施設を蝦夷文化考古館がある千住地区に複合施設として建設することができないかを今現在、検討している。今後、関係者の意見を聞き、施設の基本構

想の策定に着手していきたい。



北の本箱

発端は、記事で評論家や作家が本の置き場に悩んでいることが掲載され、「幕別町がお引き受けます」と手紙を出したことから始まった。専門書も数多く、幕別町図書館の大切な蔵書となっている。

(5)カメレオンコードの効果として、既存の分類にとらわれない本棚編集、本の並べ方というのができるようになり、北の本箱も含め、本と本のつながりを大事にして、利用者の興味などに呼応していくような本棚につくり変えていこうと計画している。

(3)「コミュニティづくり」につながる事業として、町全体でスポーツを行った住民の参加率を競う「チャレンジデー」の開催や若い世代を含め、幅広い世代が参加できるようなパークゴルフの家族大会を開催するなどのほか、生涯学習講座や異業種交流などを通じて人と人との「つながり」に発展するような事業を展開していきたいと考えている。